

静岡県菊川市

抹茶の茶葉の栽培から加工・販売までを一貫して行い海外から高評価を獲得

深蒸し茶発祥の地、菊川市で茶葉の栽培から製茶を行う一般的な茶屋であったが、加工・販売まで一貫して行うために4代目の現社長が（株）流通サービスを創業。現在では緑茶のみならず抹茶の製造販売に着手し、紅茶やコーヒー豆も取扱う。茶農家として全国で初めてソーラーシェアリングに着手し、農場の拡大や生産性向上に取組むほか、海外の展示会等において社長自ら積極的な営業活動を行い、海外販路開拓を次々と実現。

●所在地 静岡県菊川市倉沢340

●設立 1989年

●電話／FAX 0537-35-6868／0537-35-6680

●資本金 1,000万円

●URL <https://www.ecofarm.co.jp/index.html>

●従業員数 7名

●代表者 代表取締役 服部 吉明



栽培から販売までの一貫体制等で海外バイヤーの信頼獲得

茶葉栽培から加工、販売まで一貫して行い、時にはバイヤーを農地に招待、製茶作業まで一緒に行うことで、ニーズに対応した商品開発とバイヤーの信頼獲得に成功。また、展示会では和服を着てお茶を点てるパフォーマンス、店舗に訪問したバイヤーに抹茶の使い方講習を実施。世界的な人気により抹茶自体を取扱う店は増えているが、正しい使い方・点て方を理解していないケースが多い。販売後のフォローまで実施することで、抹茶及び同社の商品の魅力を適切に伝えることにも成功している。



海外向け抹茶「FUJI-MATCHA」

環境に配慮した栽培方法や有機栽培等により付加価値を向上

同社は東日本大震災後に風評被害を受けた経験から、環境への配慮やサステナブルな茶葉栽培の重要性に着目。茶農家で初のソーラーシェアリングの導入により効率的な生産に成功。また近年、緑茶の健康機能は世界的に注目されており、特に抹茶は茶殻が出ず栄養成分を残さず摂取できることでも人気を得ている。海外での人気をビジネスチャンスとして捉え、海外の味覚に合わせた抹茶用の品種の取扱いや有機JAS認証取得、高GABA玉露の開発など、健康志向の高い海外富裕層向けの販路開拓に成功している。



茶畑と茶畑に設置した太陽光発電システム

静岡県指定の地域産業資源「静岡茶」活用のモデルケース

抹茶は煎茶の約2倍の価格で取引される。しかし煎茶に比べ茶葉栽培や加工に手間がかかるため、国内生産量は緑茶全体の数パーセントである。このため、海外で流通している抹茶のはほとんどが中国産で、抹茶の定義にはあてはまらない低価格商品が多い。同社では南アルプスの麓の高地で気温の寒暖差を活かした高級な碾茶（抹茶の原料）を育て、自らが役員の組合工場で碾茶加工し、自社工場で石臼を使い丁寧に抹茶を製造。静岡茶のブランド力向上に貢献するほか、国内茶農家の付加価値向上モデルとなりうる取組である。



農事組合法人天竜愛里ふいふ製茶工場